

令和３年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 個に応じた「確かな学力」の定着と、「豊かな心」をはぐくみ、将来を「生き抜く力」を身に付けさせることによって、地域や保護者から信頼される学校をめざす。
- 地域や生徒の実情を踏まえ総合学科のメリットを生かした特色ある教育活動を展開し、社会生活を営む上で必要な基礎的・基本的な学力の定着を図る。
 - 他人を思いやる心や自然や美への感性など「豊かな心」をはぐくみ、規範意識と自律心を身に付けた生徒を育てる。
 - 教職員が一丸となって『学校力』を高めあい、生徒に「生き抜く力」を身に付けさせる。

2 中期的目標

- 学力（基礎基本的な知識・技能、学ぼうとする意欲、学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力）の確実な定着に向けて
 - 生徒一人ひとりの学力を把握し、総合学科のメリットを生かした特色ある教育活動を通じ、学力「基礎基本的な知識・技能、学ぼうとする意欲、学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力」の定着を図る。
 - 生徒の興味・関心を高める教科・科目の設定を行い、生徒の「学ぼうとする意欲」を高め、基礎的・基本的な知識・技能・教養を定着させる。
 - 生徒支援の視点から、知識、意欲、適性、学習歴等の個別データ等を教職員全員が共有することで、きめ細かな指導を行うとともに、学校教育活全般を通じ、生徒の「学び続ける姿勢、他者との望ましいコミュニケーション力」を定着させる。
 - 生徒の実態に即した授業の改善とともに魅力を向上し、卒業率の向上を図る。
 - 生き生きとした活力ある学校組織と魅力ある授業をめざして
 - 教員としての全般的な力量を高めるため、また活力ある学校組織の推進のため、本校伝統の協働の姿勢を重視した学校運営を行うとともに効果的な職員研修を実施し、あわせて教員の働き方改革についても推進する。
 - 魅力ある授業を推進するため、ＩＣＴ機器の活用を推進するとともに、「主体的・対話的で深い学びの実現」のための授業の取組みについても推進する。

※ 研究授業や研修、外部人材の活用等の様々な取組みを通して令和５年度には、生徒の授業満足度 85%以上(H30 82%, R1 90%, R2 93%)を定着させる。
- 「豊かな心」と規範意識を身に付けた生徒を育てる
 - 規律・規範のある学校環境をつくり、様々な活動を通して、豊かな心と自律心をはぐくむ取組みを推進する。
 - 生徒の自主性を育てる取組みを実践するとともに、地域への奉仕活動ができる学校をめざす。
 - 多様な学校行事や系統的な教育プログラムを通じ、質の高い生徒の集団づくり行う。

※ 生徒・保護者の学校満足度 90%以上(H30 93%, R1 98%, R2 99%)を維持する。

 - 規律・規範のある学校環境をつくり、社会ルールを順守する姿勢を育成するため予防的・開発的生徒指導をすすめ、生徒の自律心をはぐくむ。
 - キャリア教育、人権教育の推進
 - ３カ年を見通した進路指導計画に基づき、在校生の就労率や就労体験率を向上し、卒業時の進路決定率 100%（就職は就労率）をめざす。
 - 教員のキャリアカウンセリング力を向上させるための研修や外部人材の活用を推進する。
 - 互いを認め合える人権教育を実施し、差別や偏見を許さない態度を育てる。
- 生徒支援を軸にした学校づくり
 - 生徒支援
 - 生徒支援委員会を中心に担任や各分掌との連携をはかり、組織的・計画的に個々の生徒に応じた支援を実践する。
 - 学級や部活動における担任・顧問による教育相談をはじめ、ＳＣやＳＳＷの積極的な活用を推進し、生徒の「居場所づくり」をすすめ、教育相談活動と生徒支援の取組みの充実をはかるとともに、成果を認め長所を伸ばし自尊感情をはぐくむ教育活動を推進する。
 - 教員の生徒との会話力をより高め、生徒が信頼し相談しやすい安心できる学校づくりを推進するため、支援教育や人権教育に関する研修等への取組みを推進する。

※ 令和５年度まで教育相談の生徒肯定率 85%以上(H30 85.7%, R1 94.1%, R2 92.3%)の維持をめざす。

エ 上記の実践を通じて、中途退学や不登校の減少に取り組む。

※ 令和５年度には中退率 15%(H30 16%, R1 2%, R2 5%)以下、新入生の登校率 80%以上(H30 80%, R1 86%, R2 86%)を達成する。
 - 安全・安心な学校づくり
 - 定時制の現状に即した防災教育を研究し実践する。
 - 生徒の安全に配慮した学校施設の点検や改善を図る。
 - 学校教育活動の情報発信
 - ホームページや広報紙等の活用を中心に、本校における定時制教育についての情報発信を推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和３年 11 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
生徒回答率74％(89％)、保護者回答率38％(48％)であった。()内は昨年度回答率 1)「学校満足度」：生徒86.5％(98.0％) 保護者100％(100％)と極めて高い。授業に関しては「教員の指導の満足度」：生徒75.7％(92.0％) 保護者94.7％(100％)「教科・科目、内容の満足度」：生徒80.6％(90.0％)「ICT機器を活用した授業の満足度」生徒78.4％(94.0％)と高いものであった。 【分析】生徒人数が50名のため、回答によるアンケート数値への影響は大きい。その中でも授業は1人1台端末の導入により、ICTを活用したわかりやすい授業が実践されている。少人数による指導や0時間目授業などの取組みが成果を上げている。今後も基礎学力の充実と進学や就職に対応した応用力の養成をめざした授業力向上のための取組みを進めていく。 2)生徒：「生徒指導の満足度」81.1％(90.0％)「行事に対する満足度」81.1％(98.0％)「防災教育」86.5％(90.0％)「人権教育」75.0％(81.6％)といずれも高い肯定率であった。 【分析】生徒指導、防災教育、人権教育の方針と指導内容を生徒が理解し、学びに取り組んだ成果が高い肯定率となったと考える。特に教育相談においてはSC及びSSWを有効に活用した効果が大きく活用回数も年々増加している。今後も生徒支援のための教員力の向上と対応できる組織づくりを推進していく。 3)保護者：「学校の教育方針に対する理解度」89.5％(96.3％)「学校からの連絡」100％(100％)「教員の生徒理解」94.7％(96.3％)と保護者の学校に対する肯定率も高かった。 【分析】各学年の担任が家庭との連絡を密にし、連携しながら生徒支援を行うことにより保護者の学校に対する高い信頼を得ている。今後はより効果的、効率的な保護者への連絡方法を模索しながら保護者との連携を大切にしていきたい。	第1回：6月30日 ○令和３年度学校経営計画について ・生徒のやる気を高めるような目標をたてている。 第2回：11月11日 ○令和３年度学校経営計画の進捗状況について ・学校独自の研修は研修者、指導者双方にとってとても勉強になるので今後も継続してほしい。 ○1人1台端末について ・端末導入によるトラブルに即時対応するための研修や体制が整えられている。 ○校内独自の初任者研修について ・近隣の中学校に訪問して中学生の様子を見てみるのも良いのではないか。 ○授業アンケートの結果について ・生徒が楽しく学校に登校できている様子が伺える。 ○学校行事について ・文化祭を実際に見学し、生徒たちが楽しんでいる様子が見られてよかった。 今後も運営委員のみなさまのご意見を参考により良い学校運営となるよう邁進していく。 第3回：2月4日 ○令和３年度学校経営計画評価案及び令和４年度学校経営計画案について ・自己診断等の回答において肯定率が高く学習意欲が感じられる過去の回答から比べると低いようであるが、コロナ禍が影響しているのか？ ・行事においても満足感を得られるのは難しいとは思うが、教職員の皆様方のご努力に敬意を表します。 ・来年度における課題はあえていうのならICTか。 ・今ある状況に対して准校長はじめ教頭先生や教職員の皆様は、通常の教育活動に加え、その対応で大変な努力をされていることかと拝察いたします。感染拡大が一日も早く落ち着き、季節とともに学校現場にも春が来ますこと心より願っています。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 基礎的・基本的な学習の確実な定着	(1) 個に応じた学力の定着 ア 基本科目の検証、改善、進級率の向上 イ 興味関心を持たせる授業や特別活動の研究と推進 ウ 学校の将来像を考えた教育課程の編成と卒業率の向上 (2) 生徒のやる気を高め、活力と魅力ある授業づくりの推進 ア 教員力の向上と働き方改革 イ 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業の推進と授業でのICT機器の活用	(1) ア 学力診断テストを実施、結果を分析し生徒個々に対する指導の改善を図る。首席、教務を中心に定期的な教科・学年会を実施し、新入生進級率を向上する。 イ 基礎的・基本的な知識・教養の習得のための教材を工夫し実践する。外部機関や専門的講師と連携した「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」等の多彩な授業を推進し、学習活動への興味関心を高める。 ウ 不登校経験生徒の増加や学校小規模化の実態を踏まえつつ、学校の将来像と生徒のニーズを考慮した教育課程を編成し魅力ある学校づくりを推進する。また卒業率の向上を図る。 (2) ア 経験年数の少ない教員が増えているため、多彩な研修を実施するとともに研究授業を計画的に実施し、授業力を向上させる。また会議や教材作成等の効率化に取り組む。 イ 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業(ＡＬ)の取組みを推進し、生徒の授業満足度を向上させる。ICT機器を活用した授業力の向上を図る。	(1) ア 学力診断テスト分析報告会の実施。授業アンケート肯定率 85%以上〔93%〕新入生進級率 80%以上〔76%〕 イ 一年次の授業満足度 85%以上の維持〔93%〕外部機関等との連携授業数 10 件と「産社」「総合」の授業満足度 80%以上〔10 件、92%〕 ウ 生徒の実態やニーズに応じた教育課程を編成する。卒業率 90%以上の維持〔94%〕 (2) ア 職員研修回数 4 回以上〔5 回〕研究授業年 2 回以上実施〔2 回〕授業公開年 2 回以上実施〔0 回〕働き方改革推進のため業務内容や組織体制を点検する。学年、分掌、各種委員会などの校内組織業務のマニュアル化を進め業務の必要性や優先度を見直す。〔新規〕 イ ＡＬの観点を取り入れた教員間の相互授業評価を行う〔新規〕ICTを活用した授業の生徒の満足度 90%以上〔94%〕ICT機器を活用した授業力向上のための研修を実施〔新規〕	(1) ア 学力診断テスト分析会議を 4 月に実施。授業アンケート肯定率 92% (◎) 新入生進級率 85% (◎) イ 1 年次の授業満足度は 100% (◎) 外部機関との連携授業は交通安全等 6 回実施したがコロナで未実施もあった (－) 「産社」「総合」の授業満足度は 91% (◎) ウ 新教育課程を編成、卒業率は 91% (○) ※新観点別評価に向けた職員研修 10 月実施、新観点別評価実践報告会 12 月と 2 月実施 (2) ア 職員研修は 5 回実施 研究授業 7 月と 1 月に 2 回実施 授業公開 7 月と 1 月実施 (○) 校内組織業務のマニュアル化は校務運営資料としてまとめ、次年度当初に改定 (○) イ 授業研究週間において教員間の相互授業見学を行い、授業改善のための 相互授業評価を実施 (○) ICTを活用した授業の生徒の満足度 78% (△) ICT機器を活用した授業力向上のための研修は、学習支援クラウドサービス研修や校内初任者研修等 実施 (○)

府立成城高等学校 定時制の課程

2 豊かな心と規範意識を身に付けた生徒の育成	(1) 学校生活の充実 ア 生徒会活動の充実と地域貢献 イ 特別活動の充実 ウ 規範意識の醸成と感性を高める取組み エ 生徒指導法の工夫	(1) ア 体育祭、文化祭を生徒会中心に盛り上げる。生徒参加の地域清掃を2回、あいさつ週間を3回計3週間実施する。また生徒会等による学校活動の情報発信を活性化させ、生徒の学校満足度を高める。 イ 豊かな心をはぐくみ、学校生活を充実したものにするため、部活動体験入部などの取組みを行う。長期休業中等に読書期間を設けるなど、学校へ登校する機会を設ける。 ウ 行事や生徒集会等において規範意識向上の指導を行う。特に外部人材の活用や外部機関との連携を図り規範意識の醸成に取り組む。 エ 予防的・開発的生徒指導を重視し、教職員一同で生徒の自律心を高める生活指導を推進する。スマホ指導等に取組むこととで、授業規律と学習の雰囲気を改善する。	(1) ア 行事の生徒満足度 90%以上〔98.0%〕 地域清掃、あいさつ運動の実施回数〔2回、3回〕 生徒会新聞の発行 年4回〔4回〕 イ 活動部活動数 14 以上〔17〕。古典芸能(落語)や音楽、映画鑑賞等の芸能芸術鑑賞を計画的に取り入れる。長期休業期間中の図書館開館回数 2 回〔2回〕 ウ 生徒集会時や交通安全指導など、行事等における指導回数および外部人材等の活用による講演等回数 12 回〔12 回〕 生徒指導の肯定率 85%以上〔82.9%〕 エ 授業規律について全教員で確認する機会を設定。授業アンケート肯定率 80%以上を維持〔90.0%〕	(1) ア 行事の生徒満足度は 81.0% (△) コロナ禍における行事の規模縮小などが影響していると思われる。 7 月と 12 月の 2 回地域清掃を実施 (○) 7、10、12 月の 3 回あいさつ運動を実施 (○) 生徒会新聞を 4 回発行 (○) イ 部活動活動数 17 (○) 12 月に古典落語鑑賞会を実施 (○) 長期休業期間中の図書館開館を 2 回実施、延べ 3 名が利用 (○) ウ 交通安全指導、薬物乱用防止、企業インターンシップなど外部人材等の活用による講演回数はコロナの影響もあり 6 回にとどまる。 (－) 生徒指導の肯定率 81% (△) 全教員の統一した指導による声かけなどの機会を増やした結果、このような数値となった。 エ 授業規律について分掌と学年で現状を確認した。校内スタンダードを次年度に作成 (○) 授業アンケート肯定率は 95% (◎) (2) ア 就労体験率は 75% (◎) 職業・社会体験等は 12 人 (○) 教員の企業訪問件数 39 件 (○) 就職内定率 80% (○) イ S S W による教育相談研修 1 回、進路指導係によるキャリア研修 2 回の計 3 回実施 (○) ウ 生徒人権教育を 7 月、11 月、2 月に 2 回の計 4 回実施 (◎) 生徒の肯定率は 75% (△) 同和問題を実施したが次年度はさらにわかりやすく生徒に伝えられるように実施する。 薬物乱用防止、性に関する教育を 2 回実施 (○) 人権教育推進計画の策定をめざし教員間で意見交換の機会を実施 (○)
	(1) 生徒支援 ア 個別の生徒支援の取組みと効果的な生徒指導の充実 イ 承認行為と長所を伸ばす取組み ウ 居場所づくりをすすめ、不登校及び退学者の減少 エ 保健・食育指導の実施 オ 生徒との会話力をより高める取組み	(1) ア 本校独自の生徒支援カードや学力診断テスト結果等を活用し、個人懇談・保護者懇談等を計画的に実施する。あわせて生徒支援委員会を中心に SC・SSW と連携し効果的な教育相談・支援に取り組む。 イ H29 年度から実施の校内検定や資格制度等の取組みを推進し、表彰を行う。履歴書に記載できる各種検定等の受検を勧め、生徒の長所を伸ばす取組みを推進する。 ウ 高校生活になじめない新入生対策等を中心として保健室等での相談活動を充実させるなど、居場所づくりを推進する。また中高連携の取組みを推進し、新入生の登校率を向上させる。	(1) ア 学力診断テストと結果分析会議を全年次で実施〔1 回〕懇談会を年 3 回計画的に実施〔4 回〕前後期 2 回以上の生徒支援委員会の実施〔各 8 回〕 教職員の肯定率 80%以上維持〔88%〕。 イ 検定等の取組み数 2 件以上を維持〔2 件〕 成城漢字検定(校内検定)の実施 2 回と受験率 70%以上をめざす〔2 回、70%〕 ウ 教育相談の生徒肯定率 90%の維持〔90.0%〕 入学生登校率 90%をめざす〔86%〕 本校独自の保健室サポーターの活用と大学生ボランティアの活用〔2 大学 5 名〕 部活動入部率 60%以上〔59%〕 生徒登校率 75%以上を維持〔83%〕。	(1) ア 学力診断テストを 4 月に実施し結果分析会議を全年次で 4 月に実施 (○) 個人・保護者懇談は前後期 2 回ずつ計 4 回実施 (○) 生徒支援委員会は臨時を含めて 4 回実施 (○) 教職員の肯定率 90% (○) イ 表計算検定 3 級合格者 1 名、英検 3 級 3 名合格、高卒認定英語合格 1 名、N 検 2 級合格 1 名等取組み数 2 件以上実施 (○) 成城漢字検定を 2 回実施 受験率 58% (△) 生徒の登校を促すための実施時期や時間割の検討が必要 ウ 教育相談の生徒肯定率 73% (△) 教育相談利用の生徒数の増加とそれにとまなう対応について今後の改善が必要 入学生登校率 79% (△) 様々な背景をもった生徒への対応はできているが、登校を促していくことも今後の課題である。 保健室サポーターと大学生ボランティア (2 大学 2 名) を活用 (○) 部活動入部率 70% (○) 生徒登校率 78% (○) エ 感染症予防を含む啓発のための保健だよりを年 6 回発行 (○) 外部薬剤師による講演会 7 月実施 (○) オ 人権教育・キャリア相談等の教育センター研修へ延べ 5 回 3 名が参加 (○) 相談に対する生徒肯定率 73% (△) 相談を活用した生徒の肯定率は高い。次年度に向けてさらに活用しやすい案内を実施する。 (2) ア 7 月交通安全、9 月避難訓練、2 月防災教育の計 3 回実施 肯定率 86% (△) 生徒の学びは十分と考えるが次年度に向けて内容の精選等を行う。 イ 日々の巡回時の安全点検及び年 2 回の定期安全点検を実施し、生徒への注意喚起と指導を実施 (○) ウ P T A だより 2 回、同窓会だより 1 回発行 (○) 学校 H P の定期的な更新年 50 回以上 (○) ※広報用の学校説明会用スライドおよびパンフレットの改定を実施

3
生徒支援を軸にした学校づくり